

新春を迎えて



一宮市長
中野 正康

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまに謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年、一宮市は100周年を迎えるとともに、尾張地域で初の「中核市」へ移行しました。愛知県から保健所の運営をはじめ福祉や環境など幅広い分野の事務権限を譲り受けました。コロナ禍での保健所運営は困難を極めました。が、「毎日定時に新規感染者数を発表する」ことをはじめ「感染経路の分析」など、お役に立つ情報をスピーディに提供することができるようになりました。他の分野でも、市民の皆さまが中核市移行のメリットを実感できるように、さまざまな事業を進めてまいります。

コロナ禍でも、新たな時代を見すえて、小中学校でデジタル学習環境を整備する「GI GAスクール構想の推進」や、電子マネーに親しんでいただく「高齢者の新しい生活支援事業（満75歳以上の方への交通系電子マネー

ーの配布など）」、地域の消費喚起とキャッシュレス決済を推進する「キャッシュレス決済ポイント還元事業」など、多彩な取り組みを実施することができました。

今年は、戦後70年以上も親しまれてきた詰め襟学生服とセーラー服が、時代の変化に合わせてブレザー・スラックス・スカートの新しいデザインに変わります。4月からは新制服を着た中学生の皆さまが、まちに新たないろどりを加えてくれることでしょう。

7月には国内最大規模の国際芸術祭「あいち2022」が、一宮市を主会場の一つとして愛知県で開催されます。現代美術をはじめジャンルを横断した最先端の芸術を一宮市から発信し、文化芸術の活性化により地域の魅力向上を図ってまいります。

次の100年に向けた年がスタートします。皆さまにとりまして幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げます。



一宮市議会議員
花谷 昌章

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまには、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、日本国内の新型コロナウイルス新規感染者が急速な勢いで増え、医療体制のひっ迫が懸念されている中で、市民の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、感染拡大防止と地域経済活動の両立への取り組みが行われてまいりました。

また、新型コロナウイルスの影響で1年の延期を経て開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、多くの会場が無観客となる中、さまざまな競技で活躍する選手たちの姿に、多くの方がコロナ禍の苦境を乗り越える勇気を与えられたのではないのでしょうか。

さて、本市は昨年、市制施行100周年という大きな節目を迎え、地域の実情に合ったより質の高い行政サービスを迅速に提供できる

よう中核市へ移行しました。本年も引き続きワクチン接種をはじめとする感染症の終息に向けた取り組みに全力を注ぐとともに、地域経済の安定を図るための施策を進めてまいります。

市議会といたしましても、市民の皆さまの健康と生活を守ることを最優先に、課題解決に向けてしっかりと審議するだけでなく、わかりやすく開かれた議会を目指し、市議会ウェブサイトの充実に努めてまいります。

今後とも、議員一丸となり、市民の皆さまのご意見を市政に反映させることができるよう取り組んでまいりますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、本年が皆さまにとって健やかな年となりますよう祈念いたしまして、年頭のあいさついたします。